

## メンバー半減もクオリティ落とさず演奏 東海メールクワイアー第63回定期演奏会

コロナ禍で存続すら危ぶまれる合唱団が散見されるなか、昭和21年(1946年)創団の歴史ある東海メールクワイアーにおいてさえ同じような苦境に立たされました。毎回練習会場が変わり、非常事態宣言が出されるなどで、メンバーが次々離れていきました。

しかし残ったメンバーは結束を固め、なんとしても東海メールの火を消してはならないとの思いで懸命に練習を続け、当初の予定より2年間遅れとなりましたが、第63回定演を本年6月19日に無事開催しました。

前回の第62回定演では、「多田武彦作品集」と題し、午後の部(1時開演)と夕方の部(4時開演)の2回公演を、団員56人にワンステメンバー14人を加えた総勢70人にも及ぶ大合唱団で演奏しました。一部を除いて大半のメンバーがマスクなしでした。今回は過去最少の26人と減ってしまいましたが、都築義高会長は、クオリティを落とすことなく演奏できたと胸を撫でおろしています。

### 指揮者来日できず交代

今回の定演は、ウィーン合唱音楽の権威、アグネス・グロスマン氏の指揮の予定でしたが、コロナ禍のため来日できず、新進気鋭の今木智彦氏が代わって指揮し、短い期間の練習にもかかわらず、能率的且つ的確な指導で仕上げていきました。

これは団員の危機意識の高さと熱意が伴ったのことにちがいません。

今回は、サブタイトルにもあるようにウィーンに因んだ曲を中心に据えた合唱曲で構成されていました。



### 第1ステージ：「ドイツ・ロマン派合唱曲集」

・アルトラプソディ/真夜中に/ゴンドラ漕ぎ/セレナーデ

### 第2ステージ：「オペラ合唱曲集」

・巡礼の合唱/囚人の合唱/水夫の合唱/狩人の合唱  
/ああ 女というものは

### 第3ステージ：「ウィーンの調べ」

・皇帝円舞曲/美しく青きドナウ/ラデツキー行進曲/唇は  
黙し/フィナーレ

### みごとなDVDを制作

今回は、近藤洋史氏が7台のカメラを駆使した臨場感ある画像を撮り、辻純一郎氏のプロデュースでまとめ上げ、的確な字幕とともに、迫力あるDVDが作製されました。

コロナ禍の定演として後世に残す貴重な記録となることでしょう。

東海メールクワイアーは、男声合唱の振興活動にも注力しており、日本男声合唱協会JAMCAを設立し、現在その事務局も担当しています。

日本で初めて男声合唱大会を開催したのもこのJAMCAで、昭和48年(1973)のことでした。その後隔年で全国大会を各地で実現してきました。

日本の男声合唱のパイオニアとして、益々の発展を期待します。



### 東海メールクワイアー第63回定期演奏会

2022年6月19日(日)

愛知県芸術劇場コンサートホール

指揮：今木 智彦

メゾ・ソプラノ：福原 寿美枝

ピアノ：山下 勝

主催：東海メールクワイアー

後援：愛知県教育委員会/名古屋市教育委員会/愛知県合唱連盟/  
日本男声合唱協会JAMCA